

## 上部消化管内視鏡検査説明書

<検査目的> 上部消化管とは食道・胃・十二指腸を指します。これらの場所にできる病気(炎症・潰瘍・ポリープ・がん・静脈瘤など)を内視鏡で直接観察し、必要があれば色素散布、組織検査(生検)などの精密検査を行い診断します。

<方法> まず、胃の中を見やすくするシロップを飲んでから、のどあるいは鼻腔を麻酔薬で麻酔します。希望によりより楽に検査が受けられるように鎮静薬の注射をして眠くなった状態で検査を受けることもできます。内視鏡を口あるいは鼻から挿入し、上部消化管をまんべんなく観察します。必要なときには小さな組織を採取して、顕微鏡で良性か悪性かを判断します(病理組織検査)。特に痛みはありませんが、検査終了後、のどの麻酔や鎮静薬の効果がある程度とれるまで回復室で休んでいただきます。一般的に咽頭反射が強い方は、通常の方法に比べて鼻からの内視鏡検査がとても楽な場合が多いです。しかしそれでも、鼻奥に痛みを覚える場合がありますので、そういう方は鎮静剤を使用すると安楽に検査を受けられます。

<検査前日および当日の注意事項> 前日は夜9時までには食事を済ませて、以降はスポーツ飲料などの水分のみを摂取して下さい。当日は朝コップ一杯の水以外は摂らず、血圧や不整脈などの心臓の薬、精神科の薬以外は飲まないで下さい。また、初診時に忘れた方は、現在内服されている薬の一覧表か薬剤そのものをご持参下さい。

鎮静剤を使用する場合には、健忘症、アレルギーや血圧低下、呼吸抑制のほか、効果は人によっても違いますが半日くらい眠気やフラフラ感が続くこともありますので、検査当日は自動車、バイク、自転車の運転をしないで下さい。ご自身で運転して来院された方には鎮静剤を使用できません。また、ご高齢の方はご家族が付き添って下さることをお願い致します。

<検査後の注意事項> 1時間経過してのどの麻酔が切れたら水分や軽食を摂ってもかまいません。組織検査を受けられた方は2時間くらいあけて下さい。検査後当日の飲酒や喫煙はご遠慮下さい。内服に関しては、終了時に医師にご確認下さい。

<偶発症について> のどの麻酔薬によるショック、内視鏡操作によって起こる出血や穿孔などの偶発症が報告され、全国集計では発生頻度は0.007%、死亡率は0.00045%でした。万一、偶発症が発生したときには外科処置を含めた最善の処置をいたします。

年 月 日 月見の里・消化器内視鏡クリニック 小島由光

